

マチミチweb講座
 小さな一歩の踏み出し方～常陸大宮ヘルスロード構想～

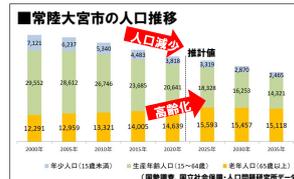


茨城県土木部道路建設課 街路担当 川上 達人

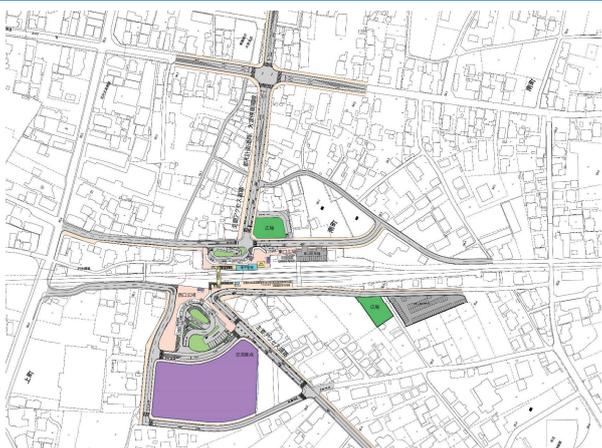
常陸大宮市の現状



- 東京から約100km、水戸から約20km
- 人口：39千人
- 面積：348km²



常陸大宮駅周辺整備計画



常陸大宮駅の現状



常陸大宮駅周辺整備計画

常陸大宮駅 新駅舎のイメージ
 (常陸大宮市HPより)



常陸大宮駅周辺整備計画

常陸大宮駅 自由通路のイメージ
 (常陸大宮市HPより)



動き出したきっかけ

【県・市】

- 市が駅周辺整備計画を策定・事業化。
- 駅前通りが県管理道路であることから県に事業化を要望。

何のために整備するのか？
というシンプルな自問

- ただ広げるだけではやらないと回答。
- 医療機関が多く集積する地域の特性を活かした街路整備を提案。

【医療機関】

- 人口減少・高齢化の進展により、これまでの医療体制の見直しが必要。

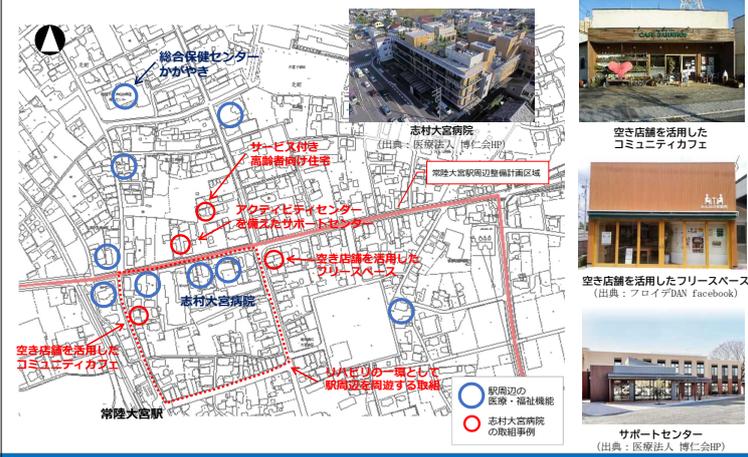
- 地域包括ケアシステムが必要
⇒地域コミュニティの再生が必要
⇒まちづくりが必要

自らまちづくりを実践
行政と協力して取り組みたい

病院の呼びかけでまちづくりの取り組みを視察

時間経過 R 1 R 2 R 3

医療機関の取り組み



プレイヤーとのファーストコンタクト



時間経過 R 1 R 2 R 3

動き出したきっかけ

病院から、まちづくりの取り組みについて紹介（病院とのファーストコンタクト）

まさに、求めていた「まちづくりのプレイヤー」
相手方も求めているのに「協働」以外の選択肢はない！
とにかく仲間に引き込んでしまおう！

視察終了後、その場で社会実験の実施を提案

時間経過 R 1 R 2 R 3

なぜ、社会実験だったのか

- 「人中心のための街路事業」であることを、内外に示したい（メッセージ）。

※内：県庁内・市…「ただ拡幅するだけじゃダメ、何のために整備するのか」

- 外：市民…「この街路は「人」のために整備しますよ」「だからみなさんもせっかく造った街路を使ってください」
- 県内市町村…「こういう取り組みがありますよ」「あなたの街でもやってみませんか」
- 市場…「常陸大宮市の駅前が変わりますよ」

- 将来の街路空間利活用のため、利活用する側（市民）に実感してもらいたい。

※都市計画道路として合意形成を図る狙いも・・・

社会実験にいたるまで

- 「常陸大宮駅周辺ヘルスロード推進協議会」を設置
メンバー：学識経験者、医療機関、交通事業者、市民代表、警察、国、県、市
- 関係者への説明と協力依頼、協議会主要メンバーの担当レベルによる「勉強会」、方針決定の「協議会」を重ねて実験の内容を決定。



時間経過 R 1 R 2 R 3

社会実験の概要（高齢者等優先レーンの設置）



時間経過

R 1	R 2	R 3
-----	-----	-----

社会実験の概要（歩行補助者の走行実験）



時間経過

R 1	R 2	R 3
-----	-----	-----

社会実験の概要（にぎわい創出（キッチンカー））



時間経過

R 1	R 2	R 3
-----	-----	-----

社会実験実施にあたって

- 県管理道路で行う県の社会実験のため、道路使用の調整が容易。
- 県警が協議会のメンバーであることから、交通規制に関する調整が円滑。
- 交通事業者（バス会社）が協議会のメンバーであることから、バスの運行に関する調整が円滑。また、将来の「人中心」のまちづくりに欠かせない公共交通の充実に関する意見交換も。
- 関係機関との調整は県が行ったが、市民への呼びかけやキッチンカーの協力依頼など利活用の主役たちに対しては、病院、市民代表、市が全面的、主体的に取り組んだ。

今後の取り組み

- 社会実験を経て、県の街路事業、市の駅周辺整備事業それぞれが事業化。
- 社会実験実施後も勉強会を継続。
- 街路事業において、詳細設計の段階から将来の街路空間利活用（ほこみちの活用を検討）を前提とした道路構造を、利用する側の意見を聞きながら検討している。
- 市は、駅周辺整備計画において駅近傍の市有地を交流拠点として位置付け、その整備、利活用にあたっての社会実験を実施。

時間経過

R 1	R 2	R 3
-----	-----	-----

交流拠点の社会実験

時間経過

R 1	R 2	R 3
-----	-----	-----

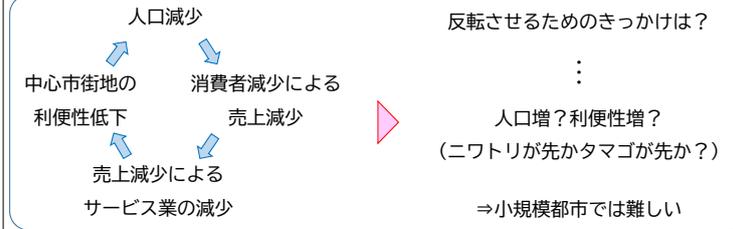
最初の一步（振り返って）

「まちづくりに医療機関を巻き込めないか」と考えていたところに、医療機関からアプローチがあったという「幸運」。

+

- この街で何が出来るかという「頭の整理」
- 動くことの「思い切り」
- 動き出した後の「膨らませ方」

頭の整理（何が問題？何が出来る？）



今、いる人たちを街に出そう！

- 人が集まる目的があれば（それが役所であれ病院であれ）、その人たちが街を歩く（人通りが増える）ことで、市場に期待感が生まれ、好転するのではないか。
- 「消費者減=人口減」ではなく「消費者減=（人口減+郊外での消費）」。
まだ街の中に人はいるはず。その人たちが街に出て歩けば・・・

これって、まさに「ウォーカブル」!?

ウォーカブルシティ

「自動車を使用せずに歩いて移動できる（バスなどの公共交通機関の利用を含む）街のこと。」

※マチミチweb講座#01

…街の再生・持続に「ウォーカブル」は「必要条件」

※十分条件ではない？

- まちづくり、街のにぎわい=「人」の活動（車ではない）
 - ・車で出来る経済活動って、ドライブスルーくらい？
 - ・車中心の街で、賑わっている事例ってあるのかな・・・？

※街なかの話です。道路は生活・経済を支えるインフラとして必要です。

歩いてもらうために

- そもそも「歩く空間」が必要 ⇒ 街路事業で歩行空間整備

でも、歩道を作るだけでは人は歩かない、賑やかにならない。
(街路整備要望を受けた時のシンプルな自問「何のために」→歩いてもらうために)

- 「歩く目的」が必要
 - ⇒ ・医療機関を起点に（通院、送迎、リハビリ）…街自体が「待合室」
 - + ・健康のため（ヘルスロード）
 - + ・楽しいから（街路空間の利活用）
- 「歩くこと」が「移動手段」として選ばれる
 - ⇒ ・自動車の抑制（自動車の利便性を「相対的に」落とす）
 - ・公共交通の拡充、街ソト駐車場（トータルの利便性は落とさない）

「造る」だけではダメ。様々なことを組み合わせてやらなければ…

動き出す難しさ

「様々なこと」

⇒「様々な立場の人」が「様々な取り組み」をすること
…当然、土木部門だけではなく、行政だけではなく、民間も含めた様々な人たちが、その地域で必要なこと、出来ることに取り組む。

※誰が何をすべきか一言では言えない、すべきことも地域で異なる、やっただとしても成功するとは限らない、だから理解が得られにくい？

「思い切って」動き出し「膨らませる」

- 難しい、そうは言っても「何か」やらなければならない。
 - ・人口減少は確実、ライフスタイルも変化、ハード整備はそのまま・・・で、いいはずがない。
- 「様々なこと」が必要だが、**主役は「市民」**。
 - ・街を歩くのも、利活用するのも市民。共感できる市民がいれば。
- 目的はしっかり、計画・手段はぼんやり（でも本質は捉えて）
 - ・ただ造るだけにならないように。ただのイベントにならないように。

計画を作ると「計画通り実行すること」が目的になってしまう

⇒動き出してから、必要な人たちと必要なことを必要になることが明らかになった時点で議論し、膨らませばいいのでは？